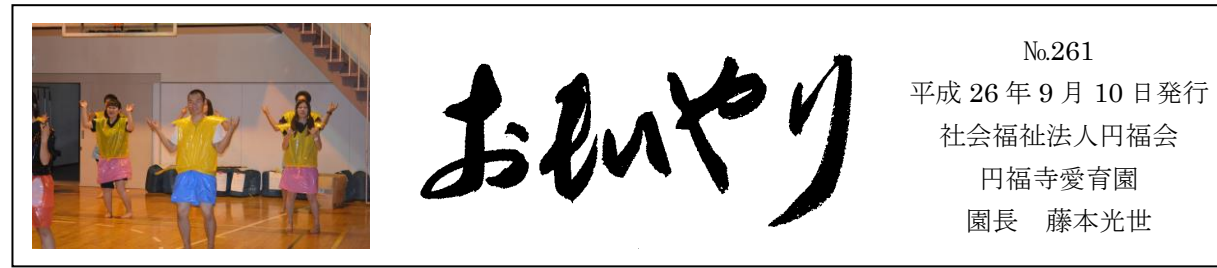


キャンドルファイアの開始をダンスで盛り上げました。



全力投球

園長 藤本光世

何でも一生懸命やろう。全力で取り組もう。行事は最高のものを創りあげよう。日課の質も最高に上げよう。これが愛育園の合言葉です。そうすると、これまでできないと思っていたことができるようになるのです。人のために尽くすことの楽しさを体験することができるのです。心の柱がしっかりしてくるのです。子ども達の表情が変わります。いつも暗い表情だったのが、明るくなります。自分は悲劇のヒーローで、何でも人の所為にしてきたことがなくなります。明るさが持続するようになります。

9月から、愛育園は運動会の練習で、毎日夕方になると子ども達が女子は2キロ、男子は3キロのコースを走っています。昨日の朝のおまいりのあとで4年生の女の子が「園長先生、足が痛くて走るのやーだー」と言ってきました。大丈夫だよ、走れるよと励まして、そのままにしておきました。この子はちゃんと夕方になると走ったのです。その後で、汗をかいたままで、玄関のポーチから事務室にいる私に向かってにこにこして、話して来ました。「園長先生、昨日より1分も縮めたんだよー。」ととても嬉しそうでした。私も、とても嬉しくなりました。

バスケットボールの練習をさぼる子がいました。走るのがつらくて、辛いことが嫌で、そこから逃げていました。自分は走れないと思っていました。部活をさぼって、ある問題を起こして、職員の指導の中で、自分から、他の子の二倍走ってみると言ってきました。その頃、野球練習の走り込みで選手は毎日5キロ走っていたのです。10キロです。なんと、彼は走りきることができたのです。それで、自分もできるという自信を持つことができました。すると、顔つきが明るくなってきました。あいさつの声も大きくなってきました。

今年のキャンプは、台風に遭遇して戸隠で開催することができなくなってしまいました。さあどうしましょう。副園長はそうなら愛育園を会場にしてキャンプをやろうと計画を立てていました。そして、戸隠キャンプの内容を、そのまま愛育園でやったのです。その様子は、職員の文によることにして、職員や子ども達の、会場が変わっても最高のキャンプにしようという意気込みが伝わって来て、本当に楽しい、最高のキャンプが出来たのです。子ども達の満足度も最高でした。凄いですね。

朝のおまいりです。一昨年あたりから、全員が参加するようになりました。2歳から高校生まで

の子どもたち全員が朝6時起床でおまいりに参加するのは、本当にすごいことです。今は、これがさらに良くなって、私が6時20分におまいりの会場の談話室に入る時には全員が並んで座って待っているようになったのです。遅れる子がいなところか、早く談話室に入るようになったのです。質が上がりました。更に、おまいりの声がとても大きくなりました。みんなが大きな声を出すようになったのです。夕方のおまいりの声は、100メートル以上も離れている、幼稚園の職員室に響いて、職員会中の職員がそろそろ愛育園は夕食なんだと気づくそうです。きっと、朝のおまいりの声も、西横田中に響いているでしょう。大きな声を出すことは、心を開くことです。気持ちの良いことです。朝、子ども達が心を開き一日をスタートすることは素晴らしいことではないでしょうか。このようにして、子ども達が明るくなりました。笑顔がたくさん見られるようになりました。お客様にしっかりした声で挨拶ができるようになりました。このことは、自立の資質として重要であり、大きな力となるでしょう。

子ども達をこうするには、職員が何でも一生懸命にやり。全力で取り組み、笑顔と挨拶を欠かさないようであればなりません。職員全員がこのことを意識して仕事できれば、子ども達は更に向上するでしょう。



9月28日に、今年初めての試みとして愛育園の運動会を開催します。児童養護施設運動会の内容を、赤組、白組に分かれて行って、勝敗を競うのです。応援合戦もやります。来年は、西横田グラウンドで開催して、西横田長栄会の皆さまを初め、大勢の皆さまをご招待したいと思います。ここでも、最高の運動会を創ります。運動会が、愛育園と地域の皆さまを結びつける新しい試みとなって成長することを願っています。

園内キャンプ

副園長 青谷 幸治

今年も戸隠キャンプに向け、職員・児童が全員で準備をしてきました。しかし、前日からの雨模様。台風も近付いていることもあり、早い決断が必要でした。そして取った決断が、中止でも延期でもなく園内を使ってキャンプをすることでした。

職員がお互いに知恵を絞り、どうすれば普段生活している場所をキャンプ場に変えることができるか。またどうすれば、子どもたちが満足してくれるか考えました。結果、管理棟の中庭には大きなブルーシートを張り、ライトを照らし、駐輪場から自転車を出して、立派な釜戸を作ることができました。雨もしのげ心配がなくなりました。また水場も作りました。そしてキャンプファイヤーの変わりは、体育館でキャンドルファイヤーを行い、たくさんのキャンドルの炎を囲み歌ったり、

踊ったりとキャンドルファイヤーを楽しむことができました。管理棟全体を使用した肝試しは野外にも劣ることなく怖がらせることもできました。夜、職員と高校3年生で語り場を行いました。高校3年生からは、戸隠キャンプ場ではないので初めはつまらないと思った。しかし先生たちとキャンプを作り上げていくうちに園内のキャンプでもいい思い出ができたと言ってもらえた。体育館では、思い思いに寝袋を広げみんなで寝ました。

翌日も雨の中、朝食作り、体育館での大運動会も大いに盛り上がりました。

小学生や幼児さんも大満足でした。どんな困難なことが起きても逃げような判断をせず冷静に考え、行動し常に子どもが喜ぶことを目標に取り組んでくれた職員に感謝します。そして、次の行事に向け最高の物を作り上げていきましょう。

～戸隠キャンプならぬ、愛育園キャンプ～

保育士 酒井悠紀

本年度のキャンプは例年のキャンプとは、一味違いました。それもそのはず、台風の接近により、当初予定を全て変更し、戸隠キャンプ場ではなく、当園でキャンプが行われたからです。



予定していた進行、レク、レンタルに関することも全て変更し、普段子ども達が生活しているこの愛育園で最高のものを作り出すために、職員は頭をフル回転です。食事を作るためには、やはり屋根が必要だ！！みんなで考え出したのがブルーシートを利用した屋根作り。普通のサイズでは屋根の機能を果たすことが出来ません。1枚で40畳ほどをカバーできる、超大型サイズのを数枚購入し、屋根を作りました。キャンプの一大イベントであるキャンプファイヤーが出来ない為、体育館内に木枠を組んで手作り感満載のキャンドルファイヤー、全てが手作りでした。

この大幅な予定変更に伴い、子ども達がどんな反応をするのか、とても不安でした。そこで、中高生を呼び、副園長から話がありました。「キャンプ行けないかも知れない、どうしたらいい？」と。子ども達は口をそろえて、「えっー！！！」と驚きを表しました。しかし、そこは中高生。愛育園で開催する事をのみ、職員とともに作り上げる側として協力する事を約束してくれました。とても心強く感じました。

中高生の活躍もあり、雰囲気壊す児童は1人もいませんでした。みんなが共通の意識を持ち、愛育園の中でキャンプをすることを全力で考えてくれました。子ども達はこんな事を言っていました。「愛育園でのキャンプも、すげー楽しい！！」と。

急な変更もありましたが、みんなの心に残るキャンプになりました。

開村式

開村式の案はすでに6月頃から青谷先生を中心に考え始めていました。世間では今「アナと雪の女王」が流行っており園の子ども達も大好きです。これを開村式でやろう！！と提案して頂き、大まかな流れを考え、子どもや職員の方々に出演を依頼し、練習を始めたのはキャンプ当日の3日前！！衣装を作ったりみんなで音に合わせて動きをつけたりアドリブも付け加え完成。

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織



本番・・・みんな緊張しながらも、それぞれの役割を果たす事が出来ました。そしてみんなからたくさん笑顔を引き出す事ができ大成功に終わりました♪

キャンドルファイヤー

保育士 富沢正樹

悪天候で急遽、園内でのキャンプと予定が変更になりました。そんな逆境は子供も職員もなんのその！！ただ、キャンプの醍醐味ともいえるキャンプファイヤーだけはどうしたものか、、、キャンプに合わせて練習してきた歌やレクやダンスです。火が無くてもやるだけやるしかないかと考えていたら、副園長先生より「キャンドルファイヤーをやろう」と案を頂きまして、諦めていた「ファイヤー」という難題クリアに希望の明かりが灯りました。

資料の写真をみると、木の板や丸太を組み立て所に何本ものろうそくを灯してあって、キャンプファイヤーとはまた一味違う、趣のある優しい灯りでした。



さっそく準備に取り掛かります。骨組みは男性職員が担当します。もちろんキャンドルファイヤー用に準備していた木などありませんから、食事作り用に準備した薪や木端を代用して積み上げていきます。資料で見るようなバランスのとれた骨組みには程遠く、不格好な形になってしまいましたが何とか出来ました。また、ろうそくも万が一にも倒れてしまうことのないように、倒れない形にするため、一度鍋で溶かし、紙コップにいれ、作り直しました。何十個も必要でとっても大変でしたが中高生の子ども達と女性職員が頑張ってくれました。

前日遅くまでかかって準備を進めたキャンドルファイヤー、当日の様子はというと、真っ暗な体育館の真ん中に皓々と灯るキャンドルを目の当たりにした子ども達から「ワァー」っと歓声が上が

りました。そのあとは、予定していたダンスや歌やレクを大いに楽しみました。(レクの中に「スイカの名産地」というレクがあるのですが、振り付けが可愛らしく、子どもから大人気でした)

キャンプファイヤーを楽しみにしていた子ども達が決してガッカリすることなくキャンドルファイヤーが出来た事、本当にうれしく思います。



今回こういった予期せぬ出来事のおかげで愛育園の子供や職員の底力を心底実感することが出来ました。特に、子供たちは日々の生活を頑張っているからこそ、雨が降ってキャンプに行けないなんていう一見悲惨に思える時でも下を向かず前向きに行動できるんだなあと思います。中高生の子たちは特に準備の段階から本当に良く手伝ってくれましたし、本番も盛り上げてくれました。

また来年のキャンプを楽しみに、子ども達と毎日を過ごしていきたいです。

グループ行動 まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年は去年と違う活動も取り入れたいという意見から、どんなものが子どもたちに喜んでもらえるか、職員の頭を捻りながら考えました。今年は奥社ウォーキング、おやつ作り、川遊び、木工細工、そして新たに加わったのが『昆虫採集』です。普段から男の子達は虫が大好きで、クワガタやカブトムシを捕まえてきたり、時にはカナブンやカミキリムシも捕まえてきます。山にはどんな虫がいるのか・・・。子どもたちと一緒に捕まえてみようという所から新たに活動に取り入れました。ただ虫を捕まえるだけ



ではなく、捕まえる為にみんなで仕掛けづくりからやってみようということになりました。しかし当日は天気も悪く愛育園でキャンプをする事になり、グループ行動もいくつか変更しないといけませんでした。川遊びと奥社ウォーキングは出来ませんので急きょミサンガ作りに変更しました。昆虫採集は天気が悪くてもやる！！という強い要望から仕掛け作りをやり、近くの木に仕掛けに行き、次の日のみんなで虫が掛っているか見に行きました。おやつ作りはバームクーヘンなど作り、おいしく出来上がりました。木工細工では写真立てを作り上手に作ることが出来ました。ミサンガ作りではみんな真剣に職員の説明を聞き、取り組む姿



が見られました。それぞれ楽しみながら活動に参加することが出来ました♪

* キャンプ・食事係 *

調理主任 中澤希衣

今年度もやってきました、年に一度の愛育園キャンプ。今年は突然の台風の接近により急きょ愛育園でのキャンプとなりました。私自身愛育園のキャンプは3回目ですが、園の中でのキャンプは今回が初めて。正直とても不安でした。しかし、やると決まればいつまでも不安を抱えたままではられません。当日は体育館のベランダから自転車置き場まで大きなブルーシートを張り雨が降っても大丈夫なように、立派な屋根を作ってもらいました。食事作り、グループ別のおやつ作りはこの下で行いました。班の数分用意されたコンロをみて、戸隠に行ったのとなんら変わりなく、とても感動しました。食事作りは班のみんなでメニューを決め前日に班ごと買い物に行き、こっちのが安い！これのがいっぱい入ってる！私これ持ってあげる！と、みんなで協力しながら当日を向かえました。食事作りは夕食・2日目の朝食です。普段はあまり料理する機会がない男の子もみんな調理をします。みんなすぐに飽きてしまうと思いきや、火起こしから御飯を炊いたり野菜を切ったりお皿を用意したりと自分から進んで動いてくれて、食事作りを通して一人一人の新たな一面が見ることができ嬉しくなりました。いつもは調理室で私たちが作っている御飯を食べている子どもたち。そんな子どもたちが自分たちでメニューを決め買い物に行き、自分たちで協力して御飯を作る。これは子どもたちにとってはとても大きな一つの経験になったのではないのでしょうか...？この経験がみんなにとってちょっとした自分の自信になってくれたらいいなと思います。



肝試し

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

「今年の肝試し係も私がやります！！」と立候補し2年連続でやらせて頂くことになりました。今年は何なものにしようか・・・。また山から走ってみんなを驚かせようか、それとも草むらに隠れてみんなを驚かせようか。係の子どもたちと今年もみんなが怖がるような物をつくり上げよう！と話し合いを数回行い、当日に向け準備をしました。しかし今年台風の為、急きょ愛育園でのキャンプに変更。戸隠で出来ない事は少し残念ではありましたが、逆に普段から生活している場所を肝試し会場に出来るなんてめったにある事ではありません。また夜の管理棟は子どもたち自身あまり行った事がない分、十分怖がらせるポイントはありました。スタートは図書館の前。そこから図書館の中を回り階段を降り、トイレの前を通過して食堂に移動します。食堂の中を一周し、外の

階段を使い体育館に戻りゴールとなります。小学生低学年から職員とペアーになり肝試しスタート。予想以上の悲鳴にお化け役の子ども達も張り切り、最後の1人まで手を抜かず頑張ってくれました。怖くてスタート地点で行きたくないという子どももいましたが、周りのみんなから励まされ、なんとかスタートを切りゴールまで行く事が出来ました。ゴールに着いたころには「全然怖くなかった～」という声も……。最後はみんな楽しかった～と言っていたので良かったです。

キャンプ 児童の感想

- 愛育園でキャンプをやると聞いた時はテンションが下がったけど、やるからにはしっかりやろうと思い準備した。夜高校3年生と職員で話をした時、先生から見て自分がどんな風に見られているのかわかって恥ずかしかったけど、嬉しかった。今回はいろいろと初めてづくしのキャンプだったけど、楽しかったです。いい思い出が作れて良かったです。(高校3年生 Tさん)
- 今年のキャンプは台風で戸隠に行く事ができなくなって園でやることになった。全然イメージがつかなかったけど、キャンプファイヤーはすごく楽しかった。1日目の夜、高校3年生と少人数の先生と話した。担当の先生とか普段関わらない先生が自分の事を話してもらったことがすごい嬉しかった。(高校4年生 Sさん)
- BBQをやったり、キャンドルファイヤーをやり楽しかったです。森のくまさんやキャンプだホイなどやり、楽しくてノリノリになりました。(小学校6年生 Yさん)
- 夏の愛育園一大イベント「キャンプ」。僕が愛育園の行事の中で一番好きな行事です。園のみんなが協力して絆が深まる。それが愛育園の「キャンプ」だと思います。



そんな楽しいキャンプに大問題が発生しました。前日になって台風です。こればかりはどうしようもなく、一時は「キャンプは中止」という案も出たそうです。何が何でも中止は嫌です。その気持ちが届き、戸隠には行けないけれど、園内でキャンプをすることに決まりました。そこから体育館を掃除して寝場所を作ったり、キャンドルファイヤーの練習をしたり、夜遅くまで頑張りました。次の日も雨よけにブルーシートを張ったり準備に動き回りました。



一日目、夕食作りの火起こしや、夜のキャンドルファイヤーに肝試しとても楽しい一日でした。

二日目もミニ運動会というイベントがありとても盛り上がりました。

今回のキャンプで気づいたことがあります。こんな困難な状況でも、ここまで楽しくすることができたのは皆の協力があつたからだだと思います。自分にとって最後となるキャンプは一番思い出になるキャンプでした。ありがとうございました。(高校3年 I. J君)

- 今日、園で戸がくしキャンプ場まで行けると思ったら、雨で愛育園がキャンプ場になってキャンプをやりました。ぼくたちの班は4班で、夜ごはんはオムそばとアミ焼きハンバーグとチョコバナナを作りました。お皿あらいもできました。
ご飯の後、キャンドルファイヤーをやりました。スイカの名さん地がおもしろかったです。その後、きも試しもやりました。兄ちゃんがきも試しの係で、おじぞうさんのぼうしとバルーン風船を持っていて、おもしろかったです。
全部終わって、体育館でねぶくろでねました。すごく楽しかったです。(小4 蜜澤乃碧)

国体選手になって

あおぞらホーム 竹内 貴裕

今年初めて国体選手になり大会までの2ヶ月間で多くのことを感じ学びました。その中でも人に対する「感謝」・「幸せ」というものを改めて強く感じました。ハンドボールを始めて4年目という経験が圧倒的に少ない私を国体選手に選び、指導して下さった成年男子の監督、コーチの皆さんには練習をはじめ、勉強になることが多く、さらに強くなれる一歩を踏み出す機会を与えて下さったことに感謝しています。

社会人という仕事とスポーツの両立が難しく、他の選手も仕事でなかなか参加できない中、「国体の練習に参加したい」と園長先生・青谷先生に相談しに行くと「よし分かった！」と気持ちよく受け入れていただき、国体の練習がある日は参加できるように勤務編成していただきました。また、大会前の夕食時には国体の壮行会までしていただき、児童・職員からの応援メッセージまで頂きました。石川県にも横断幕を手作りで作成応援に来ていただきました。普段は声を出さない児童が試合を見て一生懸命応援してくれる姿や、手作りの横断幕を見るとつらくても頑張れるという気持ちが自然と湧いてきました。応援されることの幸せを改めて感じる事が出来ました。

残念ながら試合は負けてしまいましたが、来年は勝てるように、また国体選手に選ばれるように一生懸命取り組み、子ども達の目指す人になります。

球技大会県大会に参加して

小4 H. W

7月29日に真田町の運動公園で球技大会県大会がありました。初めに松代福祉寮と対戦しました。一回戦2回戦私は勝つことが出来て嬉しかったです。次は恵愛学園でした。相手が一人足りなかったもので、私はお休みでした。本当はやりたかったけど、自分の分まで皆に頑張ってもらえるように応援していました。私は「応援も大変だなー」と思いました。最後は三帰寮でした。練習試合もやったことがある相手だったので私は勝つ自信がありました。思ったよりサーブが早くて大変だったけど勝つことが出来ました。結果は3位になれてとても嬉しかったです。



2学期が始まりました!

長い夏休みが終わり、久しぶりの園内保育、子どもたちは元気に登園してきました!! どんな夏休みだったのかな?と聞くと「愛育園のみんなでご飯を炊いたよ!」「美味しいものをいっぱい作った!」「かけこが楽しかった!」など... 沢山の楽しい思い出話が聞かれ、充実したお休みを過ごしたことが伝わってきました♡

さて、8/20(水)園内保育では2学期の始業式が行われました。園長先生においでいただき、おまいりやお話をいただきました。その中で、「2学期は、どんなことをしたいですか?」と聞かれると、年長・年中児は「大きなプールで泳げるようになりたい!!」と張り切った姿がありました。また、年少・未満児は「自分のことや自分の気持ちをお話できるようになるといいですね。」というお言葉をいただき、「はい!」と頼いお返事をしていました。

2学期は、一年の中でも一番長く、運動会や愛育園祭といった大きな行事もあります。日々の保育や行事を通して、子どもたちが心身共に成長してくれることを願い、私たち保育者も全力で♡取り組んでいきたいと思っております!! 2学期もよろしくお願ひ致します。



プールあそび 「今日プール入れる-??」と天気を気にしながら毎日プールあそびを心待ちにしている子どもたち。1学期は、水鉄砲などのおもちゃを使って遊んでいた子が、2学期のプールあそびでは、もぐったり、お魚のように泳げるように練習したりととても逞しい姿を見せています。そんなお友だちの姿に刺激されて挑戦ある子ども♡ Fight!!



8/25(月)、8月生まのお誕生会を行いました。主役の年中さんのScmは、数日前からウキウキ☆ 当日も朝から「今日、何の日か知ってる? 5のお誕生会だよ。」と嬉しそうに話していました。お誕生会は、カレーパーティーです!! カレーパーティーのために、8/22にみんなでお買い物。材料となる野菜の収穫に行きました。ナス・キュウリ・トマトが大豊作!! 「先生、これも採っていい?」「こんな大きい、あ、た!」「見て見て! いっぱいよ!」あちこちから収穫の喜びの声が上がります♡ 収穫は、スーパーの大きな袋に、ぎっしりと2つ分。7ツキの期待も高まります。みんなの期待と同じくらい重さの野菜を持ち、園に帰ろうとした時、畑のお隣りのお宅の方からリンゴをいっただきまいた♡ みんなのテンションは、さらに上がります♡ ここで、年長さんのMrちゃん「このリンゴ、Scmのお誕生会のデザートにはいいんじゃない?」と、素敵な提案をしてくれました。

お誕生当日のカレー作りは、調理の中澤先生にご指導いただきまいた。今年度の幼児さん、6人しかいません。一人ひとりがちゃんとお仕事をしなさいと、カレーライスはでき上がります。まずは、年長児2名は、お米を研ぎとろから始めます。研ぎとろの白くはるかにビュッ!! の2人です。その間に年中児・年少児・未満児は野菜の皮をむきます。たこさんの野菜の皮を頑張って最後までむくことが出来ました。次は野菜を炊きます。ここは危ないので、幼児さんは見学です。お肉を入ると、「あ、ジジジ、ういてる!!」「たべ興味津々です。最後は煮込みます。グツグツ煮えているお鍋に、カレーを割り入れます。「おいしそう!」「早く食べてー!!」と子どもたち。デザート作りまいた。Mrちゃんの提案を生かして、いちご味のデザートの中に、いっただきリンゴを入れます♡



ごちそうが完成し、いよいよお誕生会の始まりです!! 玄関前に大きなシートが敷かれます。園の先生方も大勢集まってきました。みんなの準備は、主役のScmを囲んでお祝いします♡ 園長先生からは、Scmが愛育園に来てから今日の成長の姿を、青谷先生からは、Scmとの最近のエピソードをお話しいただきました。Scmは、誕生会としての自己紹介を、大きな声で堂々と発表します。「ウルトラマンになりました!!」... き、と、なれる!! ウルトラマンのように強い!! ♪ 素敵なお誕生会カードにも大喜び♡ Scmのお誕生会のお祝いをして、カレーパーティーです。みんなのおいしいカレーライスや竹うた、デザートをいただきます♡ あまりのおいしさは、おかわり組が飛出!! 大満足(大満腹?)の誕生会です!! ♪

球技大会県大会に出場して

保育士 上原美恵子

地区予選を勝ち上がりいよいよ県大会です。朝から子ども達は口数も少なく、固い表情でかなりの緊張を感じました。私は一言「せっかく県大会に来たんだから思い切ってプレーしようね」と少しでも子ども達の緊張が和らぐように話しをしました。

いざ試合が始まってみると南信地区はどのチームもそれぞれ癖がありました。それはオーバーリアクションだったり、時には変化球のサーブだったりとすっかり翻弄されてしまい、なかなか思うような試合展開が出来ませんでした。又メンバー順によって試合の勝敗が大きく左右されてしまう事もあったりと、監督として反省することばかりでした。2勝3敗ということで入賞はあきらめていましたが、得失点差で3位という思いがけない結果でした。やはり一人一人の選手が一戦一戦力いっぱい戦ってくれたおかげかなとつくづく感心させられました。

三ヶ月間に及ぶ練習、地区大会、県大会、本当に子ども達の頑張りに感心させられたと共に子ども達の成長振りを感じています。みんな本当にお疲れ様でした。

県大会出場

保育士 土屋海都

7月29日に行われた地区球技大会3位入賞する事ができ県大会に出場することが出来ました。県大会に向けて限られた時間の中でまた練習に励みました。練習する事も大切ですがここまできたら個々の力もちろん大事ですが何よりチームワークが一番になってくるのではないかと思いました。

中高女子は全6チームが出ており全てのチームと対戦しました。緊張からなのか、体が思うように動かずに悔し涙を流す子がいました。すかさずキャプテン、副キャプテンはその子に駆け寄り声をかけ励ましていました。その後続く子も勝とうと必死にプレーしている姿が見られました。ところが不利なセット数の時声が小さくなりがちになっていたため、こちらからどんどん声を出し応援しました。試合をするときは個人で戦わなくてはいけませんが、チームとして後ろから声を出し応援することで一緒に戦うことができると感じました。1勝する事ができ喜ぶ子もいれば、自分の力が100%出し切ることができず悔しい思いをした子もいましたが。チームとしてこの県大会までこれたこととても嬉しく感じました。

いろいろな面から支えて下さった先生方ありがとうございました。またここまで頑張った中高女子のみなさんお疲れ様です。

県大会を終えて

中高女子キャプテン

球技大会を3位通過し県大会に行く事が出来ました。球技大会から6日後に県大会ということで今までよりも練習できる日数が増えました。でも、6日間で新しいことをしてもだめだなと思い今までの練習を繰り返していきました。前日のミーティングでは、試合だけでなく応援や礼儀でも勝とうとみんなに伝えました。そして迎えた県大会の初戦は風越寮でした。初戦ということもあり緊張していました。県大会でも一番手。勝って流れを作ろうという気持ちで挑みましたが結果は負け

ました。それでもまだ後ろには皆がいると思い自分に出来る限り声を出し応援しました。負けたことを引きずってしまい次の試合も勝つことが出来ませんでした。三帰寮戦では最後に粘って勝てたこと、松代戦で球技大会より点をとることができたことはとても嬉しかったです。

総合結果は入賞することは出来ませんでした。最後の年に県大会に出場することが出来たことは中高女子のみんな、監督や色々な先生方のおかげだと思います。卓球の経験がみんなよりも少なくキャプテンなのに全然練習に出れなく自分のためなところを上げたらきりがありませんが、こんな私に最後まで着いてきてくれてありがとう。今回県大会で感じた悔しさを来年の練習、試合にぶつけて頑張りたいです。最後の卓球で勝つこともできたし、悔しい思いもしたけれどいい思い出が沢山出来ました。ありがとうございました。

地藏盆

あおぞらホーム 石黒玄章

八月二十四日、恒例の地藏盆が愛育園の入り口脇に立つお地藏様の前で行われました。

お地藏さまは頭巾や前掛けも新しくかけかえられ、お供えのお菓子やジュースが飾られ、当日は、愛育園の児童はもとより、西横田地区の児童を始め区長さんや父兄が集まりました。

愛育園のお地藏様の脇の石碑にはこのように記してあります。「お守り地藏菩薩」お守り地藏菩薩さまは すべての子供を守り苦しみも悲しみも救ってくださいます 子供がみんなよい子に育ちますよう

開式にあたり、園長先生、区長さま、育成委員長さまからご挨拶を頂戴しました。皆一様に子ども達の輝く未来をお地藏様が見守ってくださる旨をお話になり、みんなの大きな願いと共にお経が始まりました。子ども達は慣れない焼香も一生懸命行い、御手を合わせお地藏様に願いを掛けました。

この願いはお地藏様に必ず届いたと思います。

虫送り

あおぞらホーム 山口 亮

8月4日の夕方から夜にかけて子ども達が生活している地区の行事として虫送りがありました。

園の隣のミニグラウンドに集まり地区の人からまず虫送りとはどんなものかについて聞きます。この虫送りは稲などにつく害虫を手を持った松明に火をつけて川などに送っていき稲の豊作を願う行事と子ども達は説明を聞きました。

この虫送りには歌があり鐘を叩きながら30分ほど区内を回ります。鐘叩くのは高校生のお手伝いさんでしたが、事前に鐘を叩くのを手伝ってほしいと言うと快く引き受けてくれました。その鐘の叩き方もリズム良く子ども達もそれに合わせて「ミノムシおーくれ〜、カンカラムーシおくれ〜」と大きな声で歌いながら松明を持ち川の方へと行きました。

その後はその火を使ってみんなで花火をして楽しみました。「翌日の片付けも含めて虫送りだよ」と伝えると翌朝全員しっかりと起き、地区の人と協力して片付けをする事ができました。地区の行事はまだまだこれからたくさんあるので、この協力できる力を大切に次の行事にもつなげていきたいと思います。